

被災地支援活動報告～岩手県立宮古病院から～

西郷和真

近畿大学医学部内科学教室 (神経内科部門)

東日本大震災において、近畿大学附属病院の取り組みの一部として岩手県立宮古病院での医療ボランティア活動について報告のため、今回この場を借りて寄稿いたします。近畿大学では、本学ホームページでも広報されていますように、近畿大学全学部、附属施設を挙げて支援活動を行っております。

<http://www.kindai.ac.jp/rd/social-activity/earthquake-east-japan/index.html>

(2013年3月31日現在)

特に医学部では、下記HPのように震災の起こった平成23年3月12日から18日に附属病救命救急部を中心としたDMATのチームや、多職種の医療関係者が組織され、東北に派遣されております。

<http://www.kindai.ac.jp/rd/social-activity/earthquake-east-japan/download-data/130119.pdf>
(2013年3月31日現在)

平成23年9月からは、全国医学部長・病院長会議の指示もあり近畿ブロックの8大学医学部のとりまとめ役である塩崎均前医学部長(現学長)の推進により近畿大学でも被災地支援活動事業に参加することになりました。近畿ブロックの各大学は岩手県の依頼により、岩手県立宮古病院、県立高田病院での医療支援を担当することになりました。県立宮古病院では、診療支援内容は医師2名(神経内科担当1名、救急外来担当1名)の体制を組み1週間の輪番で支援する体制が決まり、県立高田病院では整形外科診療を中心に近畿大学として支援を行ってきました。

その中で、我々は平成24年2月12日より一週間で外科の吉岡康多先生、平木洋子先生(当時研修医)の計3名で組織され、岩手県立宮古病院の日勤帯の救急外来を担当させて頂きました。373床の岩手県立宮古病院の位置は上記のような場所にあり、沿岸部8万人の最後の基幹病院です。盛岡から2時間、岩手花巻空港からは3時間の位置にあり、近畿大学医学部のある狭山から伊丹空港を経由して花巻空港ま

で約3時間の行程です。すなわち、近畿大学から県立宮古病院まで行く時間は計6時間という、陸の孤島になります。

県立宮古病院の佐藤元昭院長の話では、10年前に50人の常勤医師がいましたが、臨床研修医制度の問題もあり、常勤医の数は半減しています。さらに昨年の震災のために、医療崩壊のスピードが加速しています。日勤帯でも、救急車が2台-3台と数珠つなぎとなることも稀でなく、多い時には1日にDead on Arrival (DOA) が3件あったとお聞きました。



9階	小会議室 医療安全管理室 展望ロフト
8階	血液腫瘍科 結核病棟
7階	消化器科 一般内科
6階	外科 形成外科 消化器科
5階	泌尿器科 整形外科 一般内科 麻酔科 呼吸器科
4階	産婦人科 小児科 放射線科
3階	神経内科 脳神経外科 人間ドック 感染病棟 (別棟) リハビリテーション
2階	小児科 形成外科 麻酔科 透析室 手術室 臨床検査科 大会議室 事務室(総務課) 管理棟
1階	一般内科 消化器科 呼吸器科 血液腫瘍科 外科 産婦人科 泌尿器科 整形外科 脳神経外科 神経内科 放射線科 皮膚科 精神科 救急室 薬剤科 栄養指導室 生理検査室 診療放射線科 形成医療福祉連携室 医療相談室 中央処置室 事務室(医事課)
地下	放射線診療室 MFV R検査室 放射線治療室 栄養管理室 (別棟) 売店 食堂 キャンシユコーナー 理容・美容室 イベントホール

写真1 県立宮古病院 (筆者撮影)

下の写真はみなさんもお存知のことと思いますが、宮古市の被害の大きかった田老地区の写真です。がれきはすべて撤去されていますが、2重の防波堤でも津波には勝てず、すべてが津波にのみ込まれたそうです。その後、全国からボランティアの方が来られて、がれきを撤去されたそうです。当時は、電柱が整備されたところで、復興はこれからです（写真3）。

今回の医療支援でも、たくさんの方の力を借りました。特に、宮古病院の先生方、外来看護師の方、そして気前よく送り出して頂き、貴重な体験をさせて頂きました。当院神経内科の先生方に感謝致します。

今回の支援で、同行した研修医の救急診療体験が非常に勉強になったと病院側に評価を受け、2013年度から当院で臨床研修中の研修医が希望すれば、岩手県宮古病院に地域医療として研修できるようになりました。研修医には大変勉強になる施設と思います。近畿大学の研修医のみなさんに短期間でも、是



写真2 宮古市でも被害の大きかった田老地区のホテルの写真です。津波は壊れている高さ以上になったとお聞きしました。（筆者撮影）



写真3

非参加して自分の技術を磨いて、岩手県の人々との出会いから何かを学んでほしいと思います。そのような震災を忘れない気持ちを、胸に刻む必要があると思います。

岩手県立宮古病院に派遣された先生方と日程（当時の職位）

2011年

09月04日（日）～09月10日（土）

腎臓・膠原病内科 谷山 佳弘 講師
外科 加藤 寛章 助教

09月11日（日）～09月17日（土）

内分泌代謝内科 池上 博司 教授
外科 石丸英三郎 講師

2012年

02月05日（日）～02月11日（土）

消化器内科 今井 元 助教
外科 前川 昌平 助教
宮内 正晴 研修医

02月12日（日）～02月18日（土）

神経内科 西郷 和真
外科 吉岡 康多 助教
平木 洋子 研修医

岩手県立高田病院に派遣された先生方と日程（当時の職位）

01月09日（月）～01月13日（金）

近畿大学整形外科 浜西 千秋 教授

01月16日（月）～01月20日（金）

近畿大学くしもと町立病院 三木 良久 医員

04月02日（月）～04月06日（金）

近畿大学整形外科 井上 紳司 助教

04月09日（月）～04月13日（金）

近畿大学整形外科 橋本 和彦 助教

05月14日（月）～05月18日（金）

近畿大学整形外科 中川 晃一 助教

08月06日（月）～08月10日（金）

近畿大学整形外科 赤木 将男 主任教授

近畿大学整形外科 墳本 一郎 大学院生

田中 寛樹 研修医, 中村 文久 研修医

11月12日（月）～11月16日（金）

近畿大学整形外科 富山 貴司 助教

日程, スケジュール, 連絡調整などは管財事務部 永正 誠次長と岩手県立宮古病院 事務局 松館 隆次長ならびに、救急外来では、三浦昭子看護師長に大変お世話になりました。

終わりに

今回震災ボランティア活動に参加させていただいた関係各位に感謝いたします。今回派遣された医師

は、近畿大学の代表として派遣されたもので、近畿大学職員の震災支援に対する気持ちは全員同じと思っています。東北はまだまだ震災の傷跡から復興

していません。今後も医療を通じて震災復興、そして地域医療、過疎医療問題の解決について勉強して行きたいと思います。